

# 令和2年度 さいたま市立大久保小学校 自己評価書

校長 金子 要一

## 1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 授業の基本の流れとなる「大久保スタンダード」を基盤に、「進んで取り組む」「分かる」「できる」を味わわせる授業を展開し、児童の確かな学力の向上を図る。  
→児童の状況
- (2) いじめ・不登校ゼロを目指し、きめ細やかな児童観察・生徒指導・教育相談を組織的に展開し、子どもたちにとって安全・安心な学校づくりに努める。  
→児童の状況
- (3) 安心・安全できれいな学校を目指し、教育環境の整備を図る。  
→施設の安全点検、感染症等防止の取り組み実施状況
- (4) 開かれた学校づくりの実現を図る。  
→地域・保護者との連携、行事の状況

## 2 評価結果について

- ・学校評価アンケートでは、9割の児童が「授業が楽しい」と回答している。また、97%の児童が「学力が身に付いている」と考えている。ただし、「家庭で学習する習慣が身に付いている」の設問では、児童・保護者・教職員全てで低い値となっている。
- ・児童の状況について管理職への報告・相談を徹底し、早期発見・対応に努めた。また、定期的な生徒指導・教育相談部会を実施した。学校評価アンケートでは、「困った時に周りの大人や友人に相談している」と回答した児童が約8割だった。心と生活のアンケートでは、自己肯定感の低い児童（DE判定）の割合が前年同時期と比べ、約8%少なくなった。
- ・毎月の学校設備安全点検を欠かさず実施し、危険個所の把握、修繕に努めた。昇降口での消毒や教室前の消毒設置、放課後の消毒作業など実施し、感染防止に努めた。
- ・今年度は、保護者・地域の方を招いての学校行事にあまり取り組めなかった。タンポポコンサートなど児童の活動を録画したものを、保護者会で見ていただくなど工夫をした。学校日よりや学年日よりなどで、児童の活動の様子を発信するように努めた。

## 3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・「大久保スタンダード」を基本に、チームティーチングなど個に応じた指導のさらなる充実を図る。家庭学習はまずは宿題を確実に行わせ、さらに発達段階に応じて自主学習を充実させる。
- ・困った時に周りの大人や友人に相談できる児童を増やすための実態把握、命の支え合い授業等でいつでも話せる関係性を作っていく。
- ・次年度も児童の学びを保障しながら、感染症拡大防止のためによりよい形で取り組めることを考え、実践していく。
- ・最大限の工夫を行い、保護者・地域の方に児童の活躍を見ていただく機会を設けていく。配信など新しい形の取り組みも検討する。